

## 第12回時實利彦記念賞を受賞 (大学院医学薬学研究部 井ノ口 馨 教授)

大学院医学薬学研究部 井ノ口 馨 教授が、「長期記憶形成の分子・細胞機構」に関する研究業績で、第12回時實利彦記念賞を受賞しました。



時實利彦記念賞は、脳神経系の統合機能及びこれに関連した生体の統合機能の解明に意義ある研究に対して授与され、毎年1～2名が受賞しています。

井ノ口教授は「長期記憶形成の分子・細胞機構」に関する研究において、「記憶を正確に保存する仕組みに関するシナプスタグ仮説を実証したこと」、また、「脳海馬の神経新生が、記憶の海馬依存性期間を制御していることを発見したこと」が評価されて、今回ただ一人の受賞となりました。

授与式と受賞記念講演は、9月2日から4日にかけて神戸コンベンションセンターで開催された「Neuro2010」(第33回日本神経科学大会・第53回日本神経化学学会大会・第20回日本神経回路学会大会 合同大会)にて行われました。

なお、本学からの同賞受賞者は、1999年受賞の小野武年 元富山医科薬科大学長に続き2人目です。